

お知らせ

年末年始の開館と代替休館について

「年末年始に裏磐梯で遊びたい!」という皆様のご要望にお応えして、年末年始は毎日開館いたします。
また、年末年始の開館の代替として、別日に休館する期間をいただきます(土日祝日を除く)。

日	月	火	水	木	金	土
12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1
○	○	×	○	○	○	○
1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8
○	○	○	○	○	○	○
1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15
○	○	×	×	×	×	○
1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22
○	×	×	×	×	×	○

○…開館、×…休館(公衆トイレも使用できません)

代替休館日は、公衆トイレも利用できなくなります。
観光プラザ(裏磐梯観光協会)のトイレをご利用ください。
ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



レンタル情報

レンタルグッズ	料金	内訳	
		レンタル代	補償金
長靴	¥ 500	¥ 300	¥ 200
双眼鏡	¥ 1,500	¥ 500	¥ 1,000
クマ鈴 (夏期のみ)	¥ 1,100	¥ 100	¥ 1,000
スノーシュー (冬期のみ・大人)	¥ 2,500	¥ 1,500	¥ 1,000
スノーシュー (冬期のみ・子供)	¥ 2,000	¥ 1,000	¥ 1,000

貸出時間はビジターセンター開館～閉館まで(クマ鈴以外)
クマ鈴の貸出は各施設とも受付15時まで、返却16時まで
補償金は破損・紛失なく返却の際に返金

イベント情報

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントに参加される方は感染症対策へのご協力をお願いします。原則として、マスクを着用していない方や体調がすぐれない方は、イベント参加およびビジターセンター入館をお断りさせていただきます。また、イベントは人数を制限して開催しております。ご理解・ご協力のほどお願いいたします。

スノーシュー体験をしてみよう!

裏磐梯ビジターセンターでは、冬のイベントプログラムとして「わくわくスノーシュー体験」を開催いたします。スノーシュー体験を体験してみたい方、冬の自然観察を楽しみたい方のご参加お待ちしております!

“わくわくスノーシュー体験”

「スノーシューの履き方」や「雪の上の歩き方」をレクチャー!
ビジターセンターを出発して、毘沙門沼の周りを歩くコース!
周辺の自然観察や解説を交えたガイドつき!

参加費 : ひとり¥1,000
貸出物品 : スノーシュー・長靴
所要時間 : 1時間程度
参加人数 : 5名程度/回



【注意事項】

- 参加の事前予約は受け付けておりません。
- 開催日は当センターウェブサイトの「施設」のページからご確認ください(<https://urabandai-vc.jp/facility/>)。他のイベントの開催時や、スタッフの出勤状況、天候などによって開催できない場合があります。
- お客様のみの参加はご遠慮ください(親御さんのサポートが必要です)。
- スノーシューや長靴の数に限りがあるため、大人数や団体でのご利用はできません。
- 毘沙門沼の周りを歩いて帰ってくるコースです。他の場所も歩きたい方は、スノーシューのレンタルサービスをご利用ください。



【子供用のスノーシューについて】

- 子供用は「4つ」です。5つ以上は貸出できません。
- ブーツサイズ15～19cm、体重36kg以下の方が利用できます。
- 子供用の長靴はないので、ご自身で用意してください。

裏磐梯ビジターセンターのウェブサイトでは
積雪深の情報(どのくらい雪が積もっているか)を発信中!



磐梯朝日国立公園 裏磐梯ビジターセンター

〒969-2701 福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峯 1093-697

【電話】0241-32-2850 【FAX】0241-32-2851 【ウェブサイト】<http://www.urabandai-vc.jp/>

【入館料】無料 【開館時間】9:00～17:00(4～11月)/9:00～16:00(12～3月)

【休館日】毎週火曜日(祝祭日のときはその翌日、年末年始・GW・夏休み期間は無休)



ウェブサイト



インスタグラム

裏磐梯だより

No. 112

2022年1月



磐梯朝日国立公園

裏磐梯ビジターセンター

裏磐梯図鑑 No.27

虎の威を借る狐ならぬ

ハチの威を借るムシたち!?

自然解説員の巡視日記

小野川不動滝探勝路

ようこそビジターセンターへ

今年度のクマ目撃数は?

「磐梯山とレンゲ沼」

「会津富士」ともいわれる福島県のシンボル。冬の磐梯山は雪に覆われ、白銀の山と化す。レンゲ沼は自然散策にオススメの沼。夏場は水生植物が豊富で、冬場は結氷した沼の上を歩きながら冬鳥の探鳥が楽しめる。

虎の威を借る狐ならぬ

ハチの威を借るムシたち!?

今年は寅年。トラを見ようと思ったら、動物園まで行かないといけないので、なかなかお目にかかれな生き物です。でも、身近にはトラに負けず劣らず怖〜い「トラ模様」の生き物がいます。そうです、皆さんご存じの「ハチ」です！今回はそんなハチではなく、「ハチに見た目が似ているムシたち」を紹介します。どうして彼らはハチに似た姿なのでしょう？考えてみましょう。



キイロスズメバチ
Vespa simillima xanthoptera Cameron

攻撃的で危険なハチです。民家のまわりにも巣をつくります。裏磐梯にも数多く生息している身近なハチでもあります。

虎の威を借る狐

「虎の威を借る狐」という言葉は、昔の中国のお話に由来するそうです。

“虎に食べられそうになった狐が「自分は百獣の王だ、疑うなら自分の後ろについて歩いてみなさい」と言いました。虎が狐の後ろについて歩いていくと、他の動物たちはみんな逃げ出しました。その様子を見た虎は、狐が百獣の王だと思い込んでしまいました（本当は虎が怖いから、動物たちが逃げ出したのです）。”

この様子から「強いひとの力をかさに着て威張るズル賢いひとのこと」を例えて「虎の威を借る狐」といいます。

ハチの威を借るムシたち

さて、虎と同じように恐ろしいハチの力を借りるムシたちがいます。ハチといえば「刺されたら痛い！」というイメージがあって、私たち人間にとっても怖い存在ですね。そんな「ハチの怖さ」を利用して、自分たちの身を守るムシたちがいます。

ただし、ハチの威を借るムシたちは、虎の威を借る狐とは違って、ハチそのものに姿が似ています。つまり「ハチに擬態しているムシたち」なのです。ハチ自体はあの黄色と黒のシマシマ模様（警戒色）を見せて、

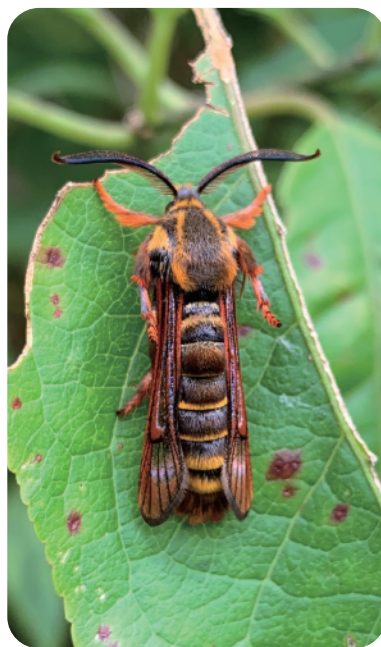
「自分は刺すぞ！」「自分は毒があるぞ！」と他の生き物にアピールしています。他の生き物も私たち人間と同じように痛い思いをするのは嫌なので、積極的にハチを襲おうとはしません。ハチの威を借るムシたちは、そんなハチに姿や形を似せることで、実際には刺したり毒があるわけではないにも関わらず、他の生き物から襲われる機会を減らすことができるのです。

ベイツ型擬態

本来は無害である生き物が、ハチのような有害な生き物に姿を似せることを「ベイツ型擬態」といいます。ベイツ型擬態では、今回紹介したハチの例以外にも、毒を持たないチョウが、毒を持つチョウと似たような模様になる例が有名です。

擬態というと「自分の姿や形を周りの環境と似せて、他の生き物から見つからないようにする」というイメージがあるかもしれませんが。これは「隠蔽擬態^{いんぺい}」と言い、他にも攻撃擬態、ミューラー型擬態といった様々な擬態があります。

擬態をはじめとして、生き物たちは、生き物同士で様々な関わりを持っています。それぞれの生き物について「どうしてこんな模様や形をしているんだろう？」と考えてみましょう。そこには、面白くて新しい発見が待っているかもしれませんよ！



セスジスカシバ
Pennisetia fixseni fixseni (Leech)
一見するとハチのようですが、実はガの仲間です。



ヨツスジハナカミキリ
Leptura ochraceofasciata Motschulsky
カミキリムシの仲間には、ハチのような模様をした種類が多くいます。

自然解説員の巡視日記

小野川不動滝探勝路



探勝路入口の鳥居



積雪時は
滑落の危険あり！
(通らないようにしましょう)

小野川
不動滝
探勝路

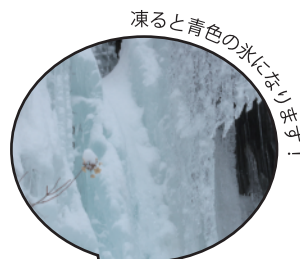
小野川不動滝
新探勝路



秋の小野川不動滝



冬の小野川不動滝
(部分的に凍結)



凍ると青色の氷になります！

小野川不動滝は、小野川湖にそそぐ小野川にある裏磐梯を代表する名瀑です。この小野川不動滝まで歩いてくコースが「小野川不動滝探勝路」です。この探勝路は、不動尊を祀った社まで至る参道と、かつてのトロッコ軌道敷からなる道で、裏磐梯地域の歴史を感じさせるコースです。コース入口の鳥居や途中の石段はまさに参道で、石段を登り切った先に続く広く平坦な道は「ここをトロッコが走っていたんだな」と容易に想像させてくれます。小野川不動滝までは、片道 20 分ほどです（雪がない時期）。

冬の小野川不動滝は「ブルーフォール」として有名です。滝が凍りついて青い氷瀑となり、夏場とは違った姿を見せてくれます。磐梯山の銅沼の先に現れるイエローフォールと並び、裏磐梯を代表する冬の名所となっています。ただし、裏磐梯は雪深いところなので、しっかりとした防寒対策や、長靴、スノーブーツ、場合によってはスノーシューの準備が必要です。また、小野川不動滝の目の前に架かる橋の向こう側は「小野川不動滝新探勝路」ですが、冬場は危険な箇所もあるので、歩くのはオススメできません。ブルーフォールを見たら、もと来た道に戻るようにしましょう。

ようこそビジターセンターへ

今年度のクマ目撃数は？

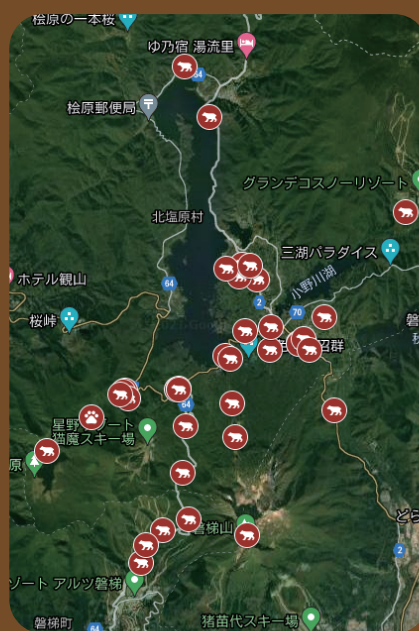


裏磐梯はツキノワグマの生息地ですが、果たして今年度のクマ目撃情報は何件だったのでしょうか？ 裏磐梯ビジターセンターに寄せられたクマ目撃情報は「37 件」（4 月～9 月）でした。ちなみに昨年度は「23 件」（6 月～9 月）で、今年度のほうが多く目撃されています。ただし、コロナ禍の影響もあり、必ずしも去年より今年の方がクマが多かったわけではないように思います。

左の図は今年度から始めた「裏磐梯クマ目撃マップ」です。寄せられた目撃情報をグーグルマップ上にプロットしたものです。こうして見ると、道路沿いや五色沼、レンゲ沼、中瀬沼の周辺での目撃が多いことが分かります。やはり人の目が多いところに集中していますね。このクマ目撃マップには、今年と去年のデータが入っているので、興味のある人は見比べてみて下さいね。



クマ目撃マップ QR



今年の情報をプロットした
「裏磐梯クマ目撃マップ」